

阿武隈の自然にはぐくまれた 歴史と食のまちのこれから

はじめに

角田市は、宮城県の南部、阿武隈川の下流域に位置しています。周囲を阿武隈の山々に囲まれ、遠くに蔵王連峰を望む風光明媚な住みよい小盆地で、面積147・57㎢、人口約3万2000人の田園都市です。

本市は、阿武隈川の流れに沿って古くから開かれ、江戸時代には阿武



多くの家族連れでにぎわう「宇宙っ子まつり」

隈川舟運の発達とともに伊達家一門筆頭の石川氏の城下町として栄え、角田盆地独自の歴史文化が築かれてきました。平安文化の薫りをとどめる高蔵寺阿弥陀堂(国の重要文化財)をはじめ、坂上田村麻呂が建立したという斗蔵寺観音堂、明治から大正に建築された数寄屋造りの豪邸を整備した郷土資料館など、歴史文化遺産が数多く点在しています。

また、日本のロケットエンジンの研究開発を行っているJAXA角田宇宙センターがあり、市の中心部の台山公園にはH-IIロケットの実物大模型をはじめ、宇宙展示館としてスペースタワー・コスモハウスがあります。毎年この場所で、こどもの日に「宇宙っ子まつり」が開催され、多くの家族連れでにぎわいを見せています。

さらに、阿武隈川の両岸には、平

たんで肥よくな約5000haの農地が広がっており、全国に先駆け、減農薬・減化学肥料による有機農業に取り組んできました。特に、特別栽培米(角田産ひとめぼれ)をはじめ、角田産大豆・秘伝豆、プロッコリ、ナシなどの農産物や、あぶくま納豆、梅干し、地ビール(仙南クラフトビール)など、魅力ある食の角田ブランドがこの環境の下に創出されています。

工業では、ホンダ系列の自動車部品工場の(株)ケーヒンをはじめ、アルプス電気(株)、ホーチキ(株)、アイリスオーヤマ(株)など、優良企業が比較的多く立地する工業都市の側面も兼ね備えています。

現状と課題

本市は、昭和40年代前半までの高度経済成長の時期に、大都市への労働力の流出が著しく、人口は年々

減少の一途をたどりました。しかし、工業用地の整備、企業誘致や第三セクター鉄道の阿武隈急行線開通などへの懸命な努力のかいあって、平成2年には、市制施行当時の人口まで回復したところです。その後は、本格的な少子高齢化、若年層の流出などにより減少傾向が続き、平成17年度に人口減少と地域活性化の対策として、「定住促進、角田・いらっしやいプラン」を策定しました。このプランに沿い、マイホーム取得支援制度、企業立地優遇制度、子育て支援事業を三本柱とした施策を実施しております。本年の6月で丸5年を迎えることとなりますが、人口減少の抑制効果見込みとしては、大変善戦した状況であるといえます。

現在、本市は、少子高齢化をはじめ、人口減少と産業停滞による活力の低下、財政難という大きな構造的な危機に直面していることから、今後この制度の充実を図り、定住化促進対策に積極的に取り組んでいきます。

活力あるまちづくりを 目指して

私が市長に就任して以来、「小さくてもキラリと光る誇りの持てるまち」を基本理念とした上で、地方小都市の個性化戦略として、行財政改革への対応、活力あるまちづくりへの対応、人口減少に歯止めをかけるための対応に取り組んできたところです。

これからの変革の時代に遅れを取らずに対応するためには、行政にかかわる者一人ひとりが持っている力を市長の下に結集し、まとまった大きな力に変え、実行力のある知性集団となるよう行政力を高めていくことが大切です。

また、平成21年度から2カ年度をかけて、新たな長期総合計画を策定しています。この計画を策定する上においては、部分的、短絡的な行政効果を求めるような発想から、長期的な展望に立った戦略を構築し、「全体最適」を求める視点から発想することが重要と考えています。地区民を挙げて取り組んだ地区計画の推進のためにも、市民と行政の円熟した協働の関係により、総力を挙げて市政を押し進めることが大切です。特

に、「定住」と「交流」をキーワードとし、地域に隠れているキラリと光るものを発掘、これらを含めた地域資源を生かしながら都市間の交流を活性化し、活力あるまちづくりを進めていきたいと考えています。

おわりに

秋には、常磐自動車道山元インターチェンジにアクセスする道路が開通する予定となっております。流通体系が大幅に改善されます。これを機会に、農商工連携により、「食の角田ブランド」と歴史・自然資源とを効果的に組み合わせ、角田ならではの観光物産の振興や交流拠点づくりを進めるなど、地域活性化のための施策を展開していきたいと考



春の風物詩となっている「菜の花まつり」

えています。

また、心豊かな、文化の香る、魅力的なまちづくりとして、まちなか再生への取り組みを行います。商業地域から文教地域にかけての資料館や市民センター界隈を中心とした、にぎわいや機能性の高い生涯学習などの拠点づくりのため、ビジョンを策定し整備を進める予定です。

さらに、学校施設の耐震化整備事業が当面の最大の課題です。ほかに、シルバー世代の健康長寿対策、若者などの定住対策、子育て支援、企業誘致や道路水路などの都市基盤整備の促進など、課題は山積しています。これらの諸課題に全力を挙げて、小さくてもキラリと光る市民が誇りを持てるまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 147・57㎢
- ◆ 人口 3万2128人
- ◆ 世帯数 1万822世帯

〔将来都市像〕小さくてもキラリと光る交流都市かくだ

〔まちの特徴〕豊かな自然資源と豊富な歴史的文化遺産が点在する一方、日本の未来を担うロケットエンジンの研究開発拠点を有する明日の宇宙を拓くまち・かくだ

〔特産品〕梅干し、あぶくま納豆、長イモ、ナシ、角田産大豆・秘伝豆、特別栽培米(角田産ひとめぼれ)、ブ



角田市長 大友喜助



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

富士山と共に歩む 自立と創造のまち

はじめに

富士吉田市は、山梨県の南東部、富士山の北麓に位置し、標高650mから900mに市街地が形成された美しい自然に恵まれた高原都市です。古くから、富士山信仰のまちとして栄え、上吉田地区の北口本宮富士浅間神社と、御師の家並みが現在もその面影を伝えていきます。また、秦の始皇帝の家臣、徐福が伝えたと言われる甲斐絹は、明治以降この地域の主たる産業として発展しました。本市はその織物産業を軸として、政治・経済・交通などあらゆる面で富士北麓の中核都市としての役割を果たしてきました。

制施行60年を迎えます。日本のシンボルである富士山のふもとに広がる自然環境は、私たちに与えてくれた大きな誇りであるとともに、限りない恩恵を与えてきています。

富士山からの恵み

本市の象徴である富士山は、国際的にも広く知られる存在であり、毎年多くの観光客が訪れます。また、富士山はその雄大な自然を背景として古来より信仰の対象となり、北口本宮富士浅間神社から富士山頂へと続く吉田口登山道で多くの人が往來し、栄えたことで、数多くの文化財が残されています。この富士山の豊かな自然と文化的な価値を後世に残すため、本市では富士山世界文化遺産候補条例の制定、保存管理計画の策定など、富士山の世界文化遺産への登録に

向けた活動に積極的に取り組んでいます。

また、富士山および本市の魅力と価値を多くの方々知っていただくため、「金鳥居茶屋」の愛称で親しまれる富士吉田市世界遺産インフォメーションセンターを整備し、専門ガイドによる富士山や本市の紹介、観光情報の提供などを行っています。同センターではさらに、お休み処として、富士吉田の名物「吉田のうどん」などの軽食や、喫茶および地場産品の販売も行っていきます。「吉田のうどん」は、農林水産省「農山漁村の郷土料理百選」にも選ばれ、そのめんの強いコシと、ゴマ、しょうゆ、砂糖などで作った「すりだね」と呼ばれる薬味に特徴があります。ぜひ一度お試しください。また、まちなかには、昭和の面



富士吉田の名物「吉田のうどん」

ここに暮らすひとが満足できるまち

地域の再生は、その地で暮らす人々が誇りを持って住み続けることが大切です。通常、人々が感じ

る幸福感には個人差があり、すべての人が同じ価値観を抱くことはありません。しかし、そこに暮らす人々の生活が充足されなければ、そのまちには魅力や活力が生まれてきません。生涯にわたって、豊かな自然環境を保全し、安全で快適に、そして健康で生きがいを誇りを持って暮らすことができるまちづくりには、さまざまな施策が必要となります。それに当たるものが、都市基盤の拡充整備、企業誘致・企業立地などによる地域の活性化、生涯学習環境の

整備などです。社会基盤の根幹を成す道路整備は、市民の日常生活の利便性の向上に加え、防災上の避難・救援ルートとしての機能はもとより、人や物の交流など経済活動の面において大変重要な役割を担っています。本市では現在、交通体系を一変させ新しい時代を迎えるための基幹的な事業に取り組んでいます。富士河口湖町と本市をトンネルで結ぶ新たなアクセス道路「新倉南線」の整備、慢性的渋滞解消のための国道138号4車線化、中央自動車道富士吉田線へのスマートインターチェンジ設置要望活動など、事業は多岐にわたっています。

また、文化活動・生涯学習・教育など人づくりの拠点施設として、市民会館・図書館の建て替え、富士五湖文化センターの改修工事に着手しています。子どもから高齢者、障害のある方などすべての市民が、安全にかつ、安心してより快適に利用できる施設として、平成23年の完成に向け、整備を進めています。

ともに築く自立と創造のまち

近年、地方自治体では、人口減

少・超高齢社会の到来やグローバル化・高度情報化の進展、地方分権や市町村合併の進行、国による各種制度改革、市民ニーズの多様化・高度化など、時代の潮流への的確な対応が求められています。魅力的で個性豊かな自治体運営を目指すとともに、透明性の確保、効率的で健全な行財政運営を行っていかねばなりません。

て暮らせる地域社会の実現のため、本市は、市民と行政が共に手を取り合い相互に理解と信頼を深めてまいります。そして、「いつでもこのまちで暮らしたい」「このまちで子どもを育てたい」と誰もが感じることができるよう「自立と創造のまち 富士吉田」を築いてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 121.83 km²
- ◆ 人口 5万2511人
- ◆ 世帯数 1万8546世帯

【まちの特徴】富士山の北面に位置し、美しい自然に恵まれた高原都市

【将来都市像】富士の自然と文化を活かし、ともに築く 自立と創造のまち 富士吉田

【特産品】うどん、織物、水

【観光】富士山、富士山リーダー道



富士吉田市長 堀内 茂



ム館、北口本宮富士浅間神社、富士吉田市歴史民俗博物館、御師旧外川家住宅、新倉山浅間公園、富士パインズパーク、富士見孝徳公園、富士吉田市立明見湖公園

【イベント】ふじざくら祭り、富士登山競走、市民夏まつり、吉田の火祭り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



新倉山浅間公園からの富士山

戦国武将が駆け抜けた地・江南 今、主役は市民へ

はじめに

愛知と岐阜の県境を流れる木曾川「江南」とは、中国の長江(揚子江)に木曾川を見立て、その南側に位置することから名付けられました。地形は平たんで、清流木曾川はくまれた肥沃な扇状地が広がり、温暖な気候、風土と相まって、災害の少ない暮らしやすい自然環境に恵まれています。戦国時代には、織田信長や豊臣秀吉などの武将たちが天下統一を夢見て青春を過ごした、歴史とロマンあふれるまちです。名古屋市から20km圏に位置する本市は、名鉄犬山線により約20分で結ばれ、名神高速道路の小牧ICや東海北陸自動車道の二宮木曾川ICにも近いことから利便性が高く、ベッドタウンとして都市化が進みました。今日では、人口10万2000

人余りとなり、尾張北部地域の中枢都市として着実に成長し、前年に市制施行55周年を迎えました。

豊かな歴史と文化

本市は、戦国武将ゆかりの地であり、信長や秀吉、蜂須賀小六らがこの江南の地を駆け抜け、天下取りの夢へ突き進む様子が、古文書「武功夜話」により伝えられています。また、曼陀羅寺、音楽寺、宮後八幡社など文化財も多く、どこを歩かれても歴史の足跡を感じていただけるよう、観光ポイントをネットワーク化して「ふるさと江南歴史散策道」を整備しています。

中でも、後醍醐天皇の勅願寺として建立され、蜂須賀小六の子で後の徳島藩主・家政ゆかりの曼陀羅寺では、境内の一部を曼陀羅寺公園として整備し、毎年4月下旬から5月

上旬にかけて「江南藤まつり」を開催しています。近年は、花の咲き具合が芳しくなかったことから、平成18年度から3年間かけて藤の再生と公園の改修工事を行いました。おかげさまで、本年度は元気によみがえった藤の花の甘い香りが園内を包み込み、期間中は43万人を超える観光客でにぎわいました。

新たな行政経営のスタート

昨今の社会経済情勢は、景気の下降局面が長期化・深刻化することが懸念され、市の財政は非常に厳しいものとなっています。

このような中、本市では平成16年度から構造改革に取り組み、地方分権の進展、多様化・高度化する市民ニーズに対応するため、平成20年度から「江南市戦略計画」に基づく新たな行政経営をスタートさせ、着実に



木曾川の流れと藤の花をイメージした市マスコットキャラクター「藤花ちゃん」

進めているところです。特に、高い戦略性をもって施策の選択と資源の集中を図りながら、次の3点について重点的に取り組んでいます。

①市民協働の推進

協働による新しい地域社会を構築するため、市民と市役所のそれぞれの立場や役割、責任を明確にする協働ガイドラインを策定し、市民活動センターなどボランティア、NPOの活動拠点を整備するとともに、参画・協働が必要な分野や業務の情報を提供しています。

また、市民協働グループの立ち上

げや活動を支援し、来年度の自治基本条例(仮称)制定に向け、市民と研究、検討を行っているところです。

②子育て支援・次世代を担う人材の育成

少子化が進み、次世代を担う子どもたちの健全な成長は、未来への希望あふれる都市づくりの根本であると考えます。前年度には、これまで市民病院の役割を果たしてきた2つの厚生連病院の統合で「江南厚生病院」が誕生し、医師不足などの問題もなく、24時間体制の「こども医療センター」が設立されるなど医療体制が充実しました。

さらに、子どもが安心して医療を受けられるよう乳幼児医療助成を拡充し、長時間の延長保育・休日保育などの新たな保育ニーズに対応す



藤の再生と公園の改修を終えにぎわう「江南藤まつり」

るため、保育園や児童館の運営に指定管理者制度を計画的に導入するなど、保育サービス全体の活性化を図っています。また、小中学校には、少人数指導などきめ細かな指導ができるよう、学校補助教員や特別支援学級等支援職員を配置し、教育体制の充実を図っています。

③市民生活に直結する都市基盤整備

市街地整備では、名鉄江南駅のバリアフリー化と併せ、江南駅および布袋駅周辺を整備し、魅力的で快適な市街地形成を推進しています。中でも、布袋駅周辺では、鉄道高架化整備事業の仮駅舎建設工事が始まるなど、本格的な整備に着手しました。

また、国営木曾三川公園内に「フラワーパーク江南」が誕生し、市民の新たな憩いの場として人気を集めています。一方、地球温暖化防止事業として、雨水を利用した「緑のカーテン」づくりの全市的な展開で水循環系の再生を図るなど、環境と市民生活が調和した豊かな生活の場を創造するための整備を重点的に進めています。

おわりに

右肩上がりの成長社会が終わり

江南市長 堀元

江南市

●名古屋市

プロフィール

- ◆ 面積 30・17km²
- ◆ 人口 10万2017人
- ◆ 世帯数 3万7996世帯

〔将来都市像〕豊かで暮らしやすい生活都市。市民の生活が地域で支えられる「生活都市」。

〔まちの特徴〕清流木曾川の南岸に位置し、豊かな自然に恵まれ、名古屋近郊のベッドタウンとして都市化の進むまち

〔特産品〕インテリア織物、越津ネギ、ダイコン、ハクサイ、ポインセチア、地酒

〔観光〕曼陀羅寺、すいとびあ江南、フラワーパーク江南、音楽寺、宮後八幡社、北野天神社

〔イベント〕江南藤まつり、あじさいまつり、七夕まつり・市民サマーフェスタ、市民まつり、市民花火大会、北野天神社筆まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

観光に、産業に、自然の恵みが生きるまち

はじめに

宿毛市は「すくも」と読み、四国の西南端、愛媛県との境界に位置します。温暖な気候と、天然の養殖場といわれるほど魚種の豊富な宿毛湾、四国百名山の一つで、春にはアケボノツツジの群生が見られる篠山、清流松田川と県内唯一の有人離島沖の島と鶴来島を擁する、自然豊かな所です。また大分県佐伯市へのフェリー航路があり、南四国と南九州を結んでいます。離島周辺は磯釣りのメッカとして全国的に知られており、遠く関西や瀬戸内地方から釣り人が年間を通してたくさん訪れます。海の透明度も高くサングや熱帯魚が豊富に見られることから、全国有数のダイビングスポットとなっています。毎年11月中旬から2月中旬にかけて見られる夕日

は、だるまが海から顔を出しているように見えるため、「だるま夕日」と呼ばれ絶好の被写体としてカメラマンに人気があります。

輩出の人物を紹介します。まず早稲田大学建学の母と称せられる小野梓氏、「コマツ」創業者の竹内明太郎氏、バカヤロー解散の吉田茂氏が挙げられます。現在では大相撲の幕内力士豊ノ島関、世界的ソプラニスタの岡本知高氏、現在アースマラソン中の間寛平氏、平成19年度文化功労者・日本芸術院会員の洋画家奥谷博氏など、日本や世界で活躍される著名な方々が本市出身でいらっしゃいます。

宿毛の大きな年中行事としては、3月に菜の花の中を走る「宿毛花へんろマラソン」、沖の島の港から山へ駆け登る「沖の島アドベンチャーラン」、秋の花火が楽しめる「市民

祭宿毛まつり」や、国体施設を生かしたスポーツイベントも多く、スポーツによるまちおこしも一つの指標としています。

観光においては自然の海、山川を生かした体験型を目指しています。ダイビングや釣りのほか、ブリやタイの養殖場での餌やり、チヌ籠漁、魚さばき、郷土料理作り、カヌー遊びなどが体験できます。さらに、四国88カ所巡りで39番札所延光寺から愛媛県40番札所の観自在寺まで、眺望の素晴らしい松尾峠を越えての遍路道ウォークなど、お接待の心をもってお客さまを迎えています。

また、重要港湾宿毛湾港岸壁には年に数回、「飛鳥Ⅱ」や「ぱしふいっくびいなす」などの豪華客船が入港し、県外のお客さまを岸壁にて歓迎、歓送をしています。本年度には

港での歓迎の物産販売や、休憩所として、またイベント実施や貨物扱いのできる広さ620㎡の木造平屋建ての交流拠点施設「すくも84マリンターミナル」が完成しました。ここを拠点にクルーズ船の船客は隣市の足摺岬や四万十川観光、本市市内観光に出掛けています。

産業振興・特産品開発

本市の基幹産業は一次産業です。少子高齢化の進む本市の役割は一次産業の振興継続ととらえ、現在、地域のお宝の発掘事業を推進しています。その2、3例を挙げますと、昔からどの家庭にも植えられ、



芋焼酎「すくもの芋」「ざまに」とポン酢「直七の里」

何げなく魚料理などに搾ったり、すしに使用していた酢ミカン「直七」(スダチでもカボスでもユズでもない)をボン酢、生酢、かつおたたきのタレ、ドレッシングに変身させました。結構好評でユズボン酢をしのご日が来ると確信しています。特にボン酢は都市部の方々に好評で、「味がまるやかで酸味が残り、さわやか」との意見を頂いています。

次にイモ。どこでもできるサツマイモを焼酎に変身させるため、免許の無い当初は製造委託をしていましたが、2年がかりで製造免許を得、純粋宿毛産の芋焼酎を平成21年6月に完成させ、販売をしています。

漁業の方では鮮魚を出すことが主体でしたが、加工の面に力を入

れ、これまでのイリコなどの干物主体から、キビナゴのバラ冷凍品、タイヤブリのフイル真空パック、すり身など、新鮮さが長持ちする、魚の加工品を製造しています。

このほか新鮮青果品としては、ブントタン、コナツ、プロッコリー、オクラ、ネギなどのほか、5年前、地球温暖化を逆手に取れば南洋果物だつてできるはずとして植えていただいたマンゴーが、平成21年夏初めて実りました。地質も合っているというところで大変美味にできあがっていました。このように少しずつこの一次産業を継続させていこうと思っています。

市民とまちづくり

南海地震の確率が高いとされる今日、学校や保育所の耐震、建て替えの時期になっています。しかし、統合を含めた建て替えとなるため、また地域住民の意思や財政的な面もあり、一気呵成には進みません。そんな中、いずこの田舎まちと同様、商店街はシャッター通り化しています。本市では、その再生と、市民が安心して集えるまちづくりによりやく着手したところであります。「公園の中にある

まち」水の豊かなまちをコンセプトに、他人任せでなく自分たちで考えるまちづくりに取り組んでいます。

現在、市民の方々による種々の部会にて意見提案を出していただき、そのまとめを中央で活躍している本市出身者にアドバイスしていただき、最終計画案の策定を進

プロフィール

- ◆ 面積 286・15km²
- ◆ 人口 2万3224人
- ◆ 世帯数 1万182世帯

〔将来都市像〕人が輝き、自然がほほえむ元気都市

〔まちの特徴〕大規模な山々と広大な宿毛湾が特徴です。特に宿毛湾はリアス式海岸で水深があり、開発の無限の可能性を持っています。さらに国立公園の一部、沖の島は観光地としても注目されています。

〔特産品〕直七、芋焼酎、ブントタン、コナツ、キビナゴほか魚介類、サング、寒蘭



宿毛市長 中西清二



〔観光〕延光寺、宿毛歴史館、咸陽島、篠山、出井岬、笹平キャンプ場、浜田の泊屋、沖の島の石垣

〔イベント〕観光びらき、宿毛花へんろマラソン、沖の島(うどの浜)海びらき、笹平キャンプ場びらき、傘鉾(2年に1度奇数年)、野菜祭り(ヤーサイ)、市民祭宿毛まつり、寒蘭の里とさ宿毛展示大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



宿毛湾に沈む「だるま夕日」

炭坑節のふるさと 田川

はじめに

田川市は、福岡県の北東部に位置し、福岡市から東に35km、北九州市から南に25kmという、2つの政令指定都市へ通勤可能な恵まれた位置にあります。東西および南の三方を山に囲まれた田川盆地の中心都市で、面積は約55km²、人口は約5万1000人です。市の中心部を南北に貫流する彦山川、中元寺川に挟まれた地域に、JR田川伊田、田川後藤寺両駅を中心とした商店街が形成され、これを取り巻く形で住宅街が並び、さらに田園地帯へとつながっています。

日本の近代化を支えた石炭の都

明治以降、急速に高まった石炭の需要は、ここ田川の地を激変さ



日本の近代化を支えた二本煙突と竪坑槽

せました。国内最大の出炭量を誇った筑豊炭田の中でも主要炭鉱であった三井田川鉱業所をはじめ、多くの炭鉱が操業し、全国各地から仕事を求めて人々が移り住んできました。昭和18年の市制施行後も人口は増え続け、昭和30年代には10万人を超え、日本の近代化を支える「炭都」として発展しました。

その後、昭和35年から始まるエネルギー革命により炭鉱は次々に姿を消し、昭和45年までに市内からすべての炭鉱がなくなりました。しかし現在、旧三井田川鉱業所伊田坑跡地を整備した石炭記念公園では、当時の貴重な産業遺産である「二本煙突」「竪坑槽」が每晚ライトアップされ、往時を忍ばせる荘厳な姿を夜空に浮かび上がらせています。

にぎわうまつり

平成18年に始まった「TAGAWA コールマイン・フェスティバル」炭坑節まつりは、毎年11月第1日曜日とその前日の2日間をかけ盛大に開催されます。本市が「月が出た出た月が出た」で有名な「炭坑節」の発祥の地であることにちなみ、本市の文化と歴史を全

交通網の発展

平成21年3月に、本市と飯塚市を結ぶ筑豊烏尾トンネルが開通し、国道201号飯塚庄内田川バイパスが全線開通しました。これにより、本市から福岡市までこれまでより20分短縮され約50分で結ばれるようになりました。また、トンネル開通に合わせ、福岡市と



風治八幡宮川渡り神幸祭

の直通特急バスも新設され、ますます便利になっています。

また平成元年に、旧国鉄伊田線、田川線、糸田線を引き継ぎ、第三セクターとして開業した平成筑豊鉄道では、平成21年12月に新型車両3両を導入しました。中でも「炭都物語号」は、黒いダイヤと呼ばれる石炭と同じ黒い車体にかつての筑豊の風景を描いたラッピングを施し、車内には炭鉱労働者の生活を描いた故山本作兵衛氏の複製画を展示するなど、観光だけでなく郷土の歴史と文化を学習

できる車両となっています。

市民参加のまちづくり

現在、ボランティアによる市内の清掃活動や、田川市総合グラウンドのり面のイロハモミジ5000本の植樹活動など、市民参加による美しいまちづくりが活発に展開されています。

また、平成21年12月、市内の福岡県立大学に、ボランティア活動を通して地域社会と連携しながら社会貢献を目指す学生を支援するために、「社会貢献・ボランティア支援センター」が設置されました。同大学の約1200人の学生のうちボランティア経験者は約7割を占めており、社会に貢献できる人材育成の支援拠点として大いに期待されています。

市民参加のまちづくり

私は、市長就任以来、本市に活力を取り戻し、地域の再生を目指すため、「温故創新・自主自立」を基本に「人が豊かに輝くまち田川」のまちづくりを進めてきました。このまちづくりの推進力として、「行財政改革」「産業構造改革」「教育改革」「福祉・医療改革」「環

境改革」を連携させた「ネットワーク5つの改革」を掲げ、市政の健全化、活性化に日々全力を注いでいます。今後さらなる改革を進め、夢と魅力あふれるまちづくりに取り組んでまいります。

おわりに

現在、市民参画による第5次総合計画の策定作業を行っております。平成23年度から始まるこの計

画では、まず地方分権の推進による地方自治体の行財政運営の在り方を踏まえ、時代の潮流や本市を取り巻く社会経済情勢を的確にとらえます。その上で、本市のまちづくりに対する基本理念、ならびに中長期的な視野に立った将来像など、本市が進むべき道筋を示すとともに、その将来像を具現化するための実効性のある計画を策定したいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 54・52km²
- ◆ 人口 5万1146人
- ◆ 世帯数 2万3945世帯

〔将来都市像〕人が豊かに輝くまち田川

〔まちの特徴〕豊かな自然に恵まれ、古くから栄えた歴史、受け継がれてきた独自の文化が薫るまち

〔特産品〕チロルチョココレート、田川まん十、ようかん「黒ダイヤ」「白ダイヤ」、ピュアパプリカ、パプリカونس、アスター、トルコギキョウ



田川市長 伊藤信勝



金川牛、セメント、しっくい
 〔観光〕石炭記念公園、石炭・歴史博物館、風治八幡宮、春日神社、田川市美術館、中村美術館、丸山公園、成道寺公園、ロマンスが丘、セストノ古墳
 〔イベント〕TAGAWA コールマイン・フェスティバル、炭坑節まつり、風治八幡宮川渡り神幸祭、春日神社岩戸神楽、伊加利人形芝居

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。